



# ARGONAUTES

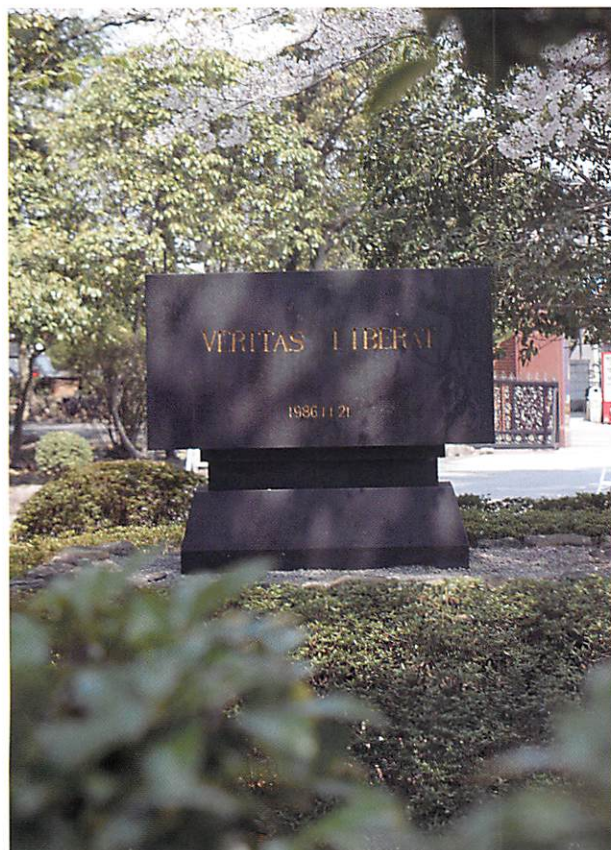
別府大学図書館報

アルゴノートNo.55

## CONTENTS

書物があなたを待っています…………… 浅野 則子  
なにをいまさら冊子体…………… 石井 保廣  
人権・部落差別解消推進教育図書コーナーの開設  
…………… 友永 植

大学開学 70 周年記念企画  
『成瀬政博原画展』を開催しました 工藤 邦彦  
第 11 回選書ツアーの実施  
図書館における感染症対策





# 書物があなたを待っています

別府大学附属図書館長 浅野 則子

遅く起きた朝に、新聞の書評をゆっくりと読むと、出版以来ずっと心から離れない本について書かれていた。久しぶりにことばの織りなす世界に浸ってみたいと思い、ネットで注文しようと、パソコンに向かった。甘かった。すでに売り切れて、再版の予定はないという。慌てて書店に向かう。当然のことながら、在庫なし。手に入らなかったことを残念に思いながらも心のどこかでは、同じように本を読む人がいるという不思議な喜びを感じていた。

世の中の動きは速い。私が学生の頃には想像できなかったことが日常となっている。スマホ、SNSがいい例である。知りたい情報が簡単に手に入る。見たいものを簡単に目にすることができる。私たちは豊かな情報の中において、それを手にし、自分のものとしたような気になっている。このような書き方は批判めいているが、私自身その恩恵に浴していることは事実だ。しかし、時々思うことがある。画面を見るように言葉を見る、読むのではない。見ることで理解したような気になってしまうのだ。それは、簡単なことばで物事を簡単に理解してしまっているということなのではないだろうか。ことば以外のものが理解を助けてくれるために、ことばそのものが簡単に、没個性的になってしまっているようである。本来は一人一人がことばによって広く広く、深く深く頭の中で作り上げていたはずの世界は、今誰もが同じイメージでとらえられる世界へと変わってしまったのではないだろうか。しかし、ことばが単なるツールになってしまったとしたら、ことばというものは本来の力を失ってしまうだろう。ことばはそれぞれの頭の中で自由に動き、新たな世界をつくりあげていくものに他ならないはずだ。

コロナ禍で私達は実際に会って話し伝え合うことが少なくなっている。ことばの貧しさは心の距離を作ってしまうかもしれない。このような時だからこそ、ことばを読み取る力が求められていくだろう。そのためには書かれたものを読み、自分

のことばで理解し、他の人々に伝える力を身につけていきたい。ことばの織りなす世界に身を委ねてみるのもよいだろう。難しいことばが作り上げている空間にあえて入り込み、長い時間をかけて自分の頭の中にあらたな知識という力を蓄えることも必要かもしれない。これからの豊かな人間関係を築くためには今、私達は書物に今まで以上に接することが必要かもしれない。書物はきっと期待に応えてくれるだろう。

図書館一階が開館以来はじめて改装される。今まで以上に書物が身近に感じられるような、優しく、それでいて凛としたフロアになる予定である。まず、新しいフロアに足を踏み入れて欲しい。きっとそこには今までにないような、書物から近づいてくれるような空間が広がっているはずだ。一階での体験はきっと二階、三階の書物の世界へと誘ってくれるだろう。

ところで、買おうとした本は二ヶ月後に手に入った。なんと三版。私と同じようなことばの世界に浸りたい人がこれほどいたことがうれしい。さて、どうやってこの言葉の世界に浸っていこうか。

(別府大学附属図書館長)



# なにをいまさら冊子体

別府大学客員教授 石井保廣

2004年から2014年にかけて諸先生から大量の蔵書をご寄贈いただいた。それらのコレクションには、それぞれに特色があり、図書や学習・教育・研究に有用な資料が多く存在する。全国の国公立大学1億4千万冊の蔵書のうち、このコレクション群にしかない資料も少なからず見受けられた。この貴重な資料を検索するには、オンライン蔵書目録（以下、OPACという）で、多様な検索が出来るが、附属図書館では、敢えて個別に冊子体目録を作成した。本稿では、そのいきさつについて述べる。

## 1. 書誌ユーティリティによるオンライン目録

附属図書館では、通常の購入資料と同様に寄贈資料も書誌ユーティリティをとおして登録し、世界中で閲覧できる方式をとっている、さらに、タイトル・著者・出版者などの書誌情報を取り込み、OPACのベースとして構成されている。

書誌ユーティリティに参加することによって、全国でこれらのコレクションもオンライン検索ができるようになった。カード目録や加除式のシーフ目録含む冊子体目録に比べ、あらゆる面でオンライン目録の優位差は明らかであり、パソコンやタブレットが普及した今日、ほぼすべての図書館でオンライン目録が採用されている。

表 1 寄贈コレクション（登録順）

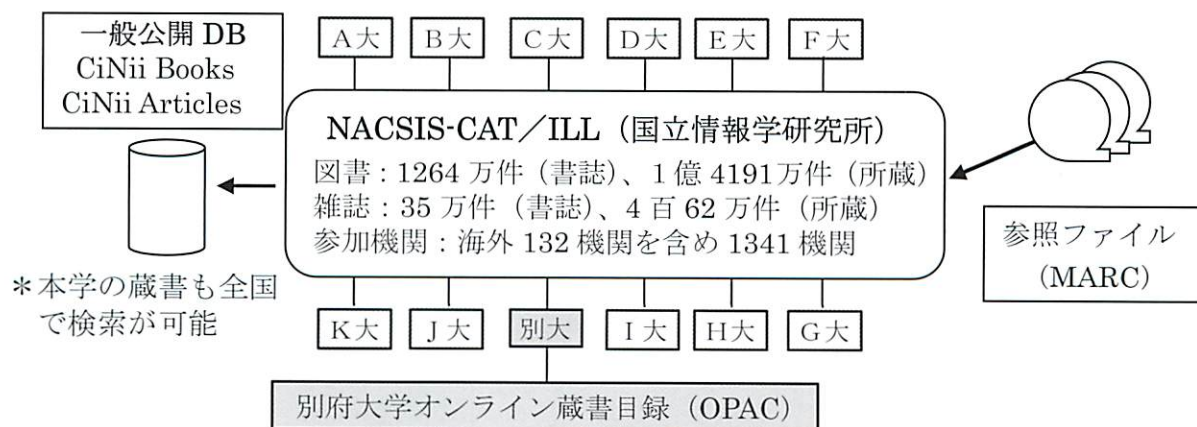
寄贈者	専門	初登録日	冊数
杉 富士雄	仏文学	2003/ 2/ 1	2,675
黒田健二郎	英文学	2004/10/22	3,517
西村 明	経済学	2007/12/ 7	7,797
佐藤 義詮	文 学	2007/12/ 7	881
秀村 欣二	西洋史	2010/ 6/ 1	10,402
馬場 典明	西洋史	2014/ 7/ 2	1,513

注) 寄贈日がはっきりとしないため、参考に最初に登録した日を記した。

図 1 コレクション群（2号館書庫）



図 2 書誌ユーティリティの概念図



注) 2021年3月7日現在



### オンライン目録の特性

- ①時間・空間（場所）を問わず検索できる
- ②登録後のタイムラグが少ないため最新の情報が閲覧可能
- ③検索語の論理式による結合が可能
- ④検索結果に対して、さらに絞り込める事後結合方式が可能のため、検索の特定が容易
- ⑤タイトル・著者・分類のほか、ISBN・言語・登録番号など、アクセスポイントが多い
- ⑥目録の追加・修正が容易
- ⑦書誌ユーティリティに参加することで、質の高い書誌情報を利用できる

他方、附属図書館では少数ではあるが敢えて、各コレクションの目録について冊子体目録の作成に踏み切った。ここからは、本題である冊子体目録の意義と概要について話を進めていきたい。

## 2. 今なぜ冊子体目録か

先に述べたように、OPACで書誌・所蔵情報を自在に検索することができる。

紙の媒体による冊子体目録では情報全体が固定され、事後結合方式ができないうえ、新たに受け入れる資料の追加も困難である。しかしながら、冊子体目録が有効である場合もある。それは、資料の増減がない固定的かつ独立した環境下にあるコレクションは、その一つであろう。

ピンポイントでしか探せないOPACに対して、閉じた世界のコレクションを一覧したり、蔵書の収集状況からその傾向や趣向まで、“その人の中”へ入り込

んでいくことができる。これこそが、冊子体目録が持つ強みであろう。

### 冊子体目録の特性

- ①冊子体ならではの一覧性・見通しのよさ（パラパラめくり vs コマ送り）
- ②独立したコレクションの冊子体は、そのコレクションの傾向を掴み易い
- ③見通しのよさ故、serendipity（思いがけない発見）に遭遇するチャンスを期待できる
- ④寄贈者への受領リストとしてのみならず、有効利用する感謝の気持ちを伝えられる

冊子体目録を作り始めた契機は、④の謝意を表したためであった。しかしながら、作成してわかったのは、オンライン蔵書目録にはない、①～③の特徴もあることを実感した。

このため、一部学生アルバイトもお願いし、冊子体目録のソースデータとなる書誌ユーティリティ登録に務めた。最初に手掛けた「秀村文庫」を皮切りに、OPACと並行してコレクションごとに、表2のとおり冊子体目録の作成を進めた。

表2 冊子体目録一覧（発行順）

	最頻値	冊数	頁総数	発行日
秀村文庫目録第1輯 [予備版]	西洋史	3,194	352	2011/12/5
黒田文庫目録	英米文学	3,517	414	2012/2/10
杉文庫目録	日本文学	2,675	300	2013/3/23
西村明文庫目録 [第1輯]	経済学	4,235	534	2012/3/30
西村明文庫目録第2輯	経済学	3,562	527	2013/3/30
杵極亭文庫目録	英米文学	881	111	2016/9/28
馬場典明文庫目録	西洋史	1,513	180	2017/9/3
秀村文庫目録 [完全版]	西洋史	10,402	1,203	2020/8/1

注) 最頻値は、NDC二次区分による

図3 コレクション別「冊子体目録」



### 3. 冊子体目録の作成工程

冊子体目録のソースデータとして、オンライン蔵書目録のデータを使うことにし、MS Access が持つ VBA (Visual Basic for Applications) で独自にプログラムを作成し、費用をかけず汎用性の高いアプリケーションを目指した。(図4)

#### 1) ソースデータの特徴

アプリケーションの作成にあたっては、ソースデータに若干の問題もあり書誌的事項の取り出しに苦慮した。

- ①書誌データが、タイトル・著者・出版者などと分離されておらず、連続した文字列であったこと
- ②書名順リスト作成のためのソート用データは、冠詞・前置詞・接続詞等をストップワードとして、除外しなければならず、特にドイツ語やフランス語もありストップワード除外のための辞書作り  
例：The、of、les、zum、Die、la、für・・・
- ③ウムラウト・エスシェット(独語)、セディーユ・アクサン(仏語)、簡体字(中文)などは、「◆文字コード◆」化されており、その国固有の文字の復元が必要  
例：Rome et la conqu◆U00EA◆te du monde m◆U00E9◆diterran◆U00E9◆en…  
例：中国◆U7EDF◆◆U8BA1◆摘要…
- ④一連の文字列から責任表示(著者・翻訳者・編集者)を抽出するアルゴリズムが見出せず、著

者名索引は断念せざるを得なかったこと

#### 2) 冊子体目録の編成

分類目録・書名索引・拼音索引(中国語の資料があるもののみ)で構成した。

##### ①分類目録

和洋混配でNDCの順に並べた書誌(書名・著者名・出版者など)・所蔵(請求記号・資料ID)データを配した目録の本体である。それぞれの資料には、シーケンシャルな番号(連番)を各索引からの参照キーとして付与した

##### ②書名索引(初期の目録は書名順リスト)

書誌のみのリストとし、現物に接架が必要な場合(所蔵事項の参照)は、連番から分類目録を参照する方法をとった。(図5)これは、通常の見出し的な索引とは異なり、完全な書誌を記載した。これは、書名からの書誌参照やコレクション一覧をする場合、この索引のみで事足りるようになるためである。

##### ③拼音索引

中国語の資料を持つコレクションのみ作成した。拼音には、四声を付与していないが、これは、ソースデータとなる書誌ユーティリティに四声が入っていないためである。また、書名索引と同様、書誌に連番を付したリストとした。

図4 冊子目録作成アプリケーションの流れ

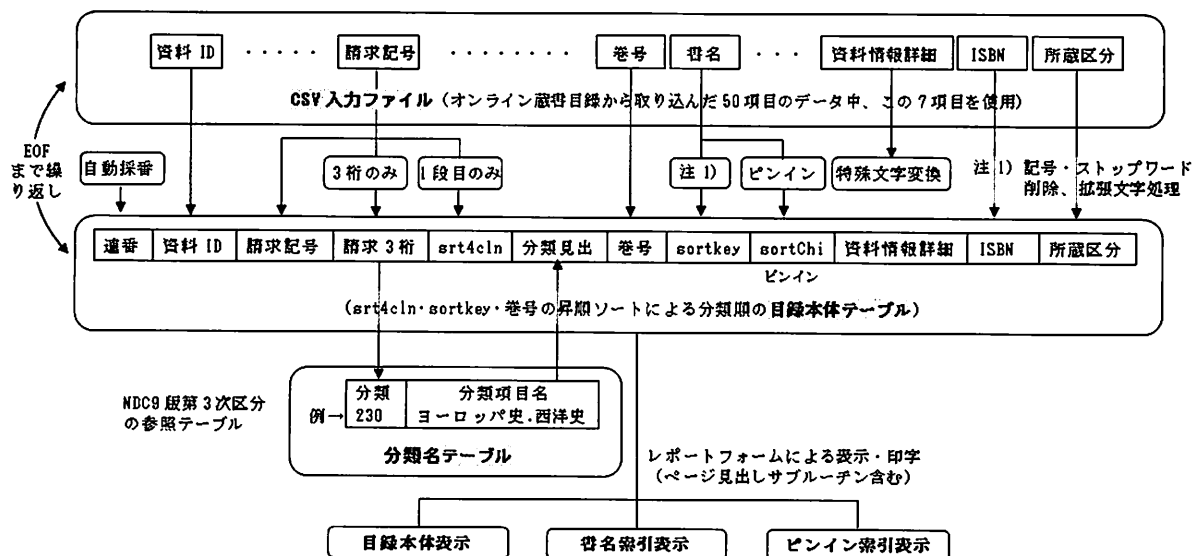
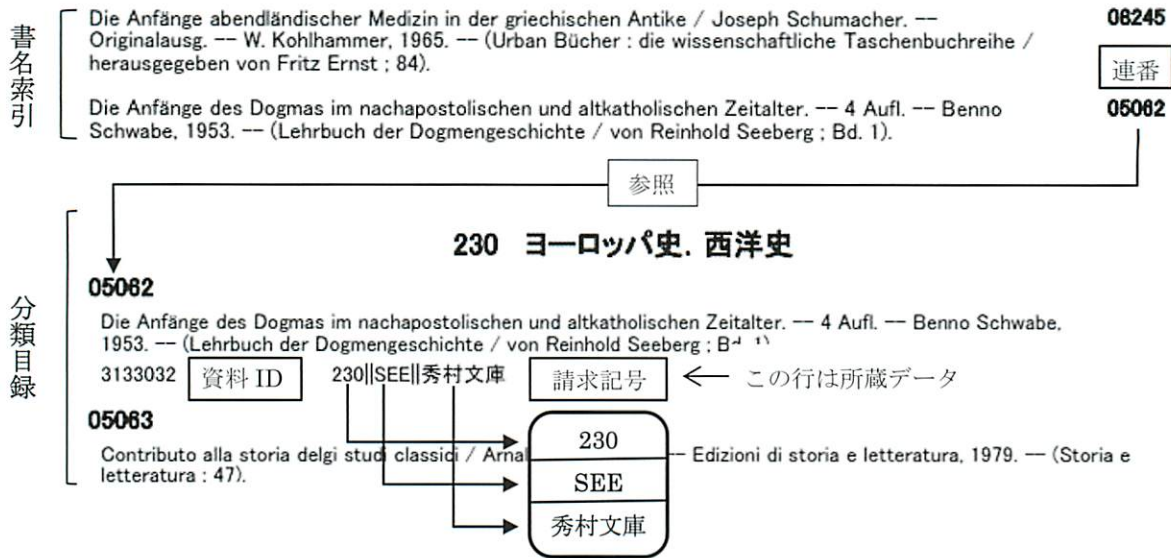


図5 書名索引から分類目録を参照する



#### 4. 各コレクションの概要

それぞれのコレクションの受贈に至る詳しい経緯は承知していないものもあるが、半数は仲介していただいた本学の先生と、研究者仲間であったか師弟関係にあったものである。

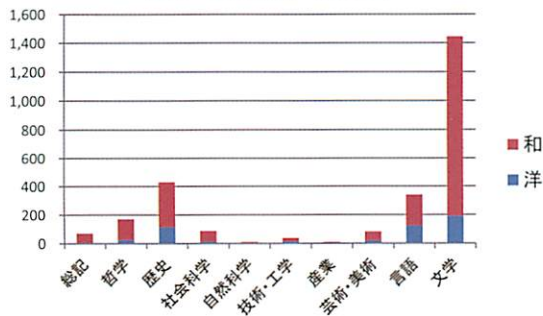
##### 1) 杉文庫目録

杉富士雄文庫は岡山大学仏文学科教授（後に中国短期大学学長）で、1984年「青春の思い出」の翻訳と研究で日本翻訳文化賞を受賞されている。ご遺族のご厚意で、その蔵書を本学に寄贈された。

##### <蔵書の構成>

文学が多く当然ながら洋書はフランス語の原著が占めている。和書は、古典物・翻訳書のほか著名作家の全集などが集められているので、学生の利用にも向いている。

図6 蔵書構成 (杉文庫)



##### 2) 黒田文庫目録

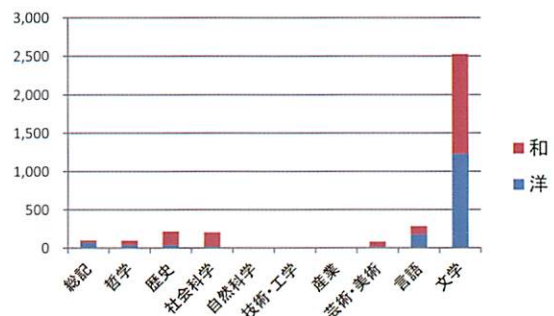
神戸大名譽教授で本学の文学部教授であった、

英文学者黒田健二郎氏は、平成13年7月にご逝去された。ご遺族から平成14年9月に本学附属図書館に寄贈された。

##### <蔵書の構成>

文学が圧倒的に多く、約半数は洋書の構成となっている。和書は多彩な作家の作品のほか、翻訳ものが並び、洋書も英書がほとんどで多彩な作品が並んでいる。

図7 蔵書構成 (黒田文庫)



##### 3) 西村明文庫目録

本学の学長であった西村明氏は、九州大学の名誉教授でもある。在任中に国際経営学部設立に奔走された。その研究棟1階に図書館分室（ラーニングcommons）が設置されたのを機に大量の資料を寄贈された。蔵書の中には、中国の会計に関する資料も多く文化大革命で消失し、本国では探しにくい資料も存在すると伺っている。なお、中国語の入力に時間を要し、第1輯・第2輯と2分冊



図 8 ラーニングcommonsに収められた西村明文庫

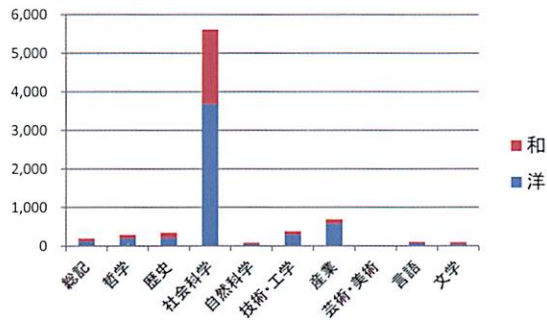


にせざるを得なかった。

#### <蔵書の構成>

グラフは、第1輯・第2輯をまとめている。圧倒的に経済学分野のものが多く、そのほとんどが会計学に関するもので、半数以上が外書で、その多くを中国語が占めている。

図 9 蔵書構成 (西村明文庫)



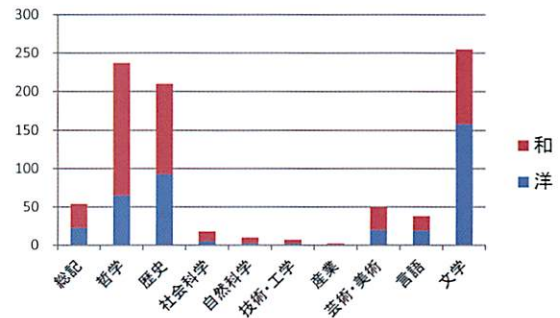
#### 4) 杵極亭文庫目録

図書館から、佐藤瑠威前学長・佐藤允昭名誉教授にお願いして、大学の創始者である、故佐藤義詮先生の蔵書をご寄贈いただいた。旧居にはまだ資料が残っており、諸般の事情で運べなかった。大学史を語るうえでも大切な資料なので残念である。佐藤義詮先生は、ご自宅の門に「杵極亭」と書かれておられたので、このコレクション名も「杵極亭文庫」とそのまま踏襲し、「平成 28 年度特別強化事業費助成金（別府大学 GP）大 RS6」をいただき完成した。

#### <蔵書の構成>

歴史・哲学・文学関連のものが多く、洋書の割合もかなり多い。特筆すべきは、郷土誌に関するもの収集されており、先生の造詣の深さを感じ取ることができる。

図 10 蔵書構成 (杵極亭文庫)



#### 5) 秀村文庫目録

秀村先生は、東京大学の名誉教授で西洋史がご専門である。その蔵書が膨大であり、なかなか受け入れ先が決まらなかったが、本学教員の働きかけと、たまたま、図書館に 2 号館書庫が新設されたのを機に、当時の理事長とも相談し、本学で保存させていただくことになった。貴重な資料も多く、本学にとっては幸いなことであった。

一連の目録の最初に刊行した冊子体目録は、テストも兼ねた予備版と位置付けている。

コレクションが大部であったため完全版は 3 分冊となり、刊行も最後となった。

図 11 20t 車による搬入



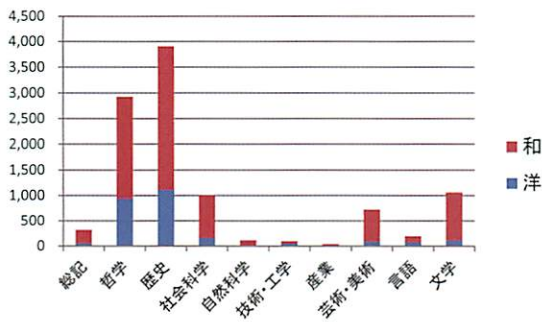
図 12 本館に積まれた 1 万冊の資料



＜蔵書の構成＞

哲学（特に神学）、歴史（特に西洋史）が、蔵書の骨格を成している。洋書は、1800 年代ラテン語・ドイツ語なども多く、大学図書館の中で、この蔵書にしかない資料が見受けられる。

図 13 蔵書構成（秀村文庫）



6) 馬場典明文庫

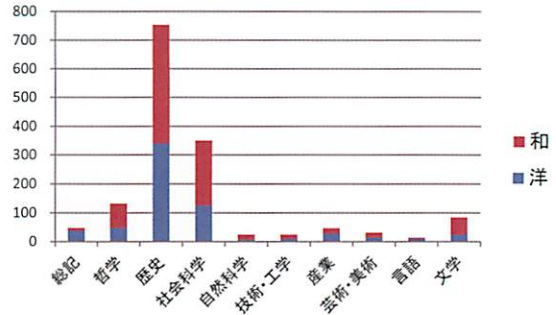
馬場先生は、九州大学の名誉教授で、1997 年から 2003 年まで本学でも教鞭をとられた。

目録のまえがきによると、「ローマ社会経済史の大家として「ローマ大土地所有制」に関する研究論文執筆に心血を注がれました。」とある。この目録は、「平成 29 年度特別強化事業費助成金(別府大学 GP) 大 RS9」を得て完成した。なお、先生のご著書については、本学山本春樹名誉教授の働きかけで、九州大学学術情報リポジトリで「ローマ大土地所有制研究」が公開されたので参照されたい。

＜蔵書の構成＞

歴史分野が突出している。なかでも、西洋古典史が一番多い。洋書は、英語以外のものも多数存在する。二番目に多い社会科学分野でも、西洋史に関連する社会法制史などが占めている。

図 14 蔵書の構成（馬場文庫）



5. 結び

今日、どこの図書館でも狭隘化が進み寄贈の受け入れが困難な状況となっている。本学では、特に喫緊の課題である。一方で、これだけのコレクションを収集できたのは、資料の配置換えを繰り返して、収納を可能にした図書館人の尽力が大であったことは言うまでもない。これらを有効に活用していただくため、冊子体目録を作成できたのは、幸いであった。冊子体目録は、最近では日の目を見ない“枯れた”検索ツールである。しかしながら、変動の無い固定化したコレクションでは、OPAC にはない魅力あふれる検索ツールとなる可能性を秘めている。諸般の事情から発行部数も寄贈者（ご遺族）・国立国会図書館・近隣の公立図書館・関係教員、そして本学図書館（積層書庫 2 層に配置）のわずかな部数であったが、うまく使われることを切に願っている。

なお、書誌ユーティリティへの登録にあたって、キー入力に難しい中文を含む西村明文庫の全部ほか、他のコレクションの相当数を登録していただいた吉岡義信氏（前事務次長）及び学生の教育・管理に当たっていただいた、図書館の泉江莉氏（現総務・研究推進課）の図書館のサービスを向上しようという姿勢に敬意を表したい。



## 人権・部落差別解消推進教育図書コーナーの開設

別府大学文学部 教授 友 永 植

昨年（2020年）4月、本学附属図書館の一角に「人権・部落差別解消推進教育図書コーナー」が開設されました。これまで図書館内に散在していた人権問題なにかんづく部落差別問題に関する図書を一括し、学生・教職員の学習と教育に資さしめることを目的に設けられたものです。現時点における蔵書は、書籍72冊、雑誌3誌、新聞1紙というささやかなものですが、このコーナーが開設された意義は大きいものがあります。

人権の尊重は「日本国憲法」や国連の「世界人権宣言」が謳う崇高な理念であることはいまでもありません<sup>①</sup>。今日、人権問題の対象は年々広がりを見せ、現在、日本では17分野にわたっています<sup>②</sup>。従来、主要な課題とされてきたものに、部落差別・女性・子ども・高齢者・障がい者・外国人・医療に係る問題などがありますが、その中でも部落差別は日本の歴史過程の中で醸成されてきた大変根深い問題で、これまで人権問題の核心をなしてきました。

明治維新とともに封建時代は終焉しましたが、その後も部落差別は根強く残り、多くの人々はいわれなき苦痛に苛まれました。住井すゑさんの小

説『橋のない川』を読んだ人も少なくないと思います。1922年、「全国水平社」が設立され、被差別部落の人々による部落差別撤廃の運動が始まりました<sup>③</sup>。そして1969年に至って「同和対策特別措置法」が制定され、これ以降33年間にわたり国による部落差別解消の事業が推進されました<sup>④</sup>。しかし、このような施策によっても部落差別が完全に解消されることはなく、いわゆる「部落地名総鑑」の出版<sup>⑤</sup>やインターネットによる部落差別<sup>⑥</sup>など、新たな差別の局面が露呈してきました。その後、このような状況を危惧する人々の努力下、2016年に「部落差別の解消の推進に関する法律」（部落差別解消推進法）制定がされ、今日に至っています。

しかし、このような関係者の努力や法制の整備にもかかわらず、今日、結婚や就職における偏見・差別など部落差別を巡る問題は依然として存在しています。それは国の同和対策事業の終了に伴い、社会における部落差別解消の意識が退潮するとともに、部落問題に関する教育的取り組みが後退してきたことに原因の一端があると思われます。社会を担う人材の育成を使命とする高等教育機関は、今後、部落差別を始めとする人権問題を正面から捉え、教育の一環として学生とともに考え、行動する責務があるでしょう。

さて、当該コーナーの蔵書は今後充実をはかる必要がありますが、既存の書籍の中には教育・研究上、貴重な書籍も含まれています。『おおいたの部落解放史』（バックナンバー21冊）<sup>⑦</sup>はそのような書籍の一つで、大分県の被差別部落解放の歴史と現状を具体的な史資料に基づいて考察した研究叢書です。また、『熱い叫び 被差別部落からの告発』<sup>⑧</sup>は1981年に毎日新聞社大分版に連載された同名の特集記事をもとに編集されたもので、40年前のことですが、大分県の部落差別の実態を活写したルポルタージュです。最近の書籍としては、『部落解放論の最前線 多角的視点からの展開』<sup>⑨</sup>があります。この書は2022年の「全国水平社」





創立100周年を控え、これまでの部落解放運動を総括するとともに、今日のネット社会における運動のあり方や国連の人権活動との連携などといった新たな視角から、今後の部落問題を展望したものです。この外、俄か勉強の私が見落としている必読の書は多々あるかと思えます。

以上、部落差別の問題に焦点を当ててきましたが、本学には外国籍の学生さんも多く、また障がいのある学生さんも在籍しています。人権課題は私たちの身近なところに存在します。本学の建学の精神「心理は我らを自由にする」は、非科学的な偏見や旧来の陋習にとらわれない思考や行動の大切さを説いています。さまざまな人権課題を自分自身の問題として捉え、みんなで差別のない社会を作りましょう。皆さん「人権・部落差別解消推進教育図書コーナー」に足を運んでみて下さい。

- ① 世界的に見れば、近代的な人権の考え方は近代市民社会の形成とともに確立し、アメリカ独立戦争における「バージニア権利憲章」(1776年)やフランス革命における「人間と市民の権利の宣言(フランス人権宣言)」(1789年)などにおいて具現化されました。
- ② 法務省人権擁護局によりますと、人権啓発活動の強調事項として次の17項目が挙げられています。(1)女性の人権を守ろう、(2)子どもの人権を守ろう、(3)高齢者の人権を守ろう、(4)障害を理由とする偏見や差別をなくそう、(5)同和問題(部落差別)を解消しよう、(6)アイヌの人々に対する偏見や差別をなくそう、(7)外国人の

人権を尊重しよう、(8)H I V感染者等に対する偏見や差別をなくそう、(9)ハンセン病患者・元患者・その家族に対する偏見や差別をなくそう、(10)刑を終えて出所した人に対する偏見や差別をなくそう、(11)犯罪被害者とその家族の人権に配慮しよう、(12)インターネットによる人権侵害をなくそう、(13)北朝鮮当局による人権侵害問題に対する認識を深めよう、(14)ホームレスに対する偏見や差別をなくそう、(15)性的指向及び性自認を理由とする偏見や差別をなくそう、(16)人身取引をなくそう、(17)東日本大震災に起因する偏見や差別をなくそう。(法務省の公式ホームページ)

- ③ 1922年3月3日の「全国水平社」創立大会における「水平社創立宣言」は、日本における最初の人権宣言と言われています。
- ④ 時限立法の「同和対策特別措置法」が期限切れになった後、1982年の(昭和57)「地域改善対策特別措置法」、1987年の(昭和62)「地域改善対策特定事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」などの後継法により、2002年(平成14)まで国による同和事業が継続しました。
- ⑤ 「部落地名総鑑」は被差別部落の所在地一覧を記した書物の総称で、1975年にはじめてその存在が発覚し、その後次々と同類の書物が見つかりました。これらは企業等が購入し、人事調査に用いたとされ、部落差別を助長するものとして糾弾されました。
- ⑥ インターネットの普及に伴い、ネット上において差別発言を行ったり、被差別部落の所在を示すリストやその様な地区の写真・動画を掲載するなど、差別やそれを助長する新たな行為が出現してきました。これはインターネットの匿名性・無痕跡性を利用した新たな動向で、掲載された情報が容易に複製され際限なく拡散する恐れがあります。
- ⑦ 大分部落史研究会編、1983年-2003年。当該書籍は全国部落解放同盟大分県連合会よりご寄贈いただきました。
- ⑧ 毎日新聞大分支局編、葦書房、1982年。
- ⑨ 朝治武・谷元昭信・寺本伸明・友永健三編著、解放出版社、2018年。

## 大学開学70周年記念企画

### 『成瀬政博原画展』を開催しました

別府大学司書課程 准教授 工藤 邦彦

2020(令和2)年10月10日(土)から23日(金)の会期中、佐藤義詮記念館(2階展示ギャラリーホール)に於いて大学開学70周年記念企画として『成瀬政博原画展』を開催、盛況を博しました。原画展は『文化をはぐくむ令和のこころ:第22回大分県民芸術文化祭共催行事(次代を担う人材育成行事)』の一環として開催したことから、開催初日には成瀬先生が来学され、学際科目である『九州学』受講の学生に向け『本、読むことと作

ること。』と題した講演会を行いました。

講演では成瀬先生が裁判所勤めから画家に転身を図るまでの原点とも云うべき若かりし頃の逸話や、創作活動で長野県安曇野に居住するなかでのご家族との心温まるエピソードなど、ユニークかつ複眼的な視点で人との出会いが日々の生活をより豊かにする契機と成り得ることを穏やかに語りかけられました。

ところで、成瀬先生とのご縁は、本学にて

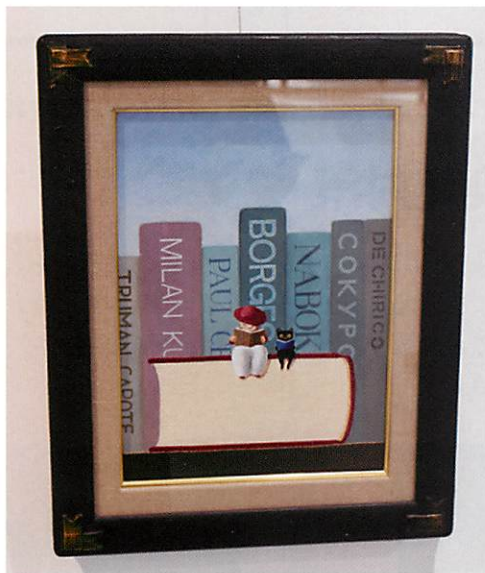


2007年盛夏に開講した「司書講習」で特別講演を賜ったことからとなります。以来毎年、全国各地の図書館勤務志望者の目に留まるポスター原画を制作いただき、早や10数年近くが経ちました。ただ、ポスターは、講習受講者の募集案内という性格上、目に触れる時期が限られ、いわばエフェメラ（＝一過性資料）になりがちな広報媒体でありました。しかし、このたび、飯沼学長のご配慮もあって、成瀬先生の安曇野のご自宅に保管されておられる「司書講習」ポスター原画8点と、成瀬先生が1997年より『週刊新潮』に表紙絵として描かれた作品のなかからご自身で厳選いただいた

た原画11点を展示することと相成り、各々の作品から醸し出される可愛らしさや儚さのなかに秘められた“夢”を鑑賞する好機を得ました。

借越ながら、これまで本学で開催してまいりました「司書講習」のあゆみをふりかえる趣向で夏季講習の授業風景や受講者と講師の先生方との交流行事に関するパネル、懐かしい写真の数々も併せて展示いたしました。

展示にあたり、ご多忙のなか、成瀬先生にお骨折りいただきましたことを感謝するとともに、これまで多くの作品を創作し、その傍らエッセイを執筆するなどマルチな活動をされてこられた先生の益々のご活躍を祈念いたします。



#### 展示いたしました「司書講習」ポスター原画（抜粋）

・成瀬政博 記 表紙のはなし 作品紹介「本の山」転載  
いっとう最初に本を作ったのは、どこのだれだろう。いつのことかしら。言葉がたまって、頭の中にはもう入れられなくなって、頭から言葉がぼろぼろ落ち出して、ああ、もったいない。もったないと、あわてて言葉を捨て、それから、ひらめいたのかしら。人は死んでも言葉は言葉を生んで、死んでゆく人々の背中やお尻の上に、どんどん本の山をこしらえて、それは無限のことかしら。



左から 作品名 → ・「知識と情報」 ・「そんな日々」 ・「本の虫」 ・「いつの日か」

#### 成瀬政博（なるせ・まさひろ）

1947年大阪生まれ。画家、イラストレーター、エッセイストとしてご活躍中。

大阪外国語大学朝鮮語学科卒業。卒業後5～6年は“フリーター”として過ごす。その後、大阪簡易裁判所で9年半勤務。勤務の傍ら、雑誌に美術評論を発表、詩集や絵本、体験記等を出版。

1989年、長野県の安曇野（北安曇郡松川村）に移住。（現在もお住まい。）

1997年春より、『週刊新潮』の表紙絵とコラムを連載。

2000年、タオル美術館 ASAKURA（愛媛県今治市）にて『週刊新潮』表紙絵原画常設展示。

2004年、安曇野に個人美術館「museum cafe BANANA MOON」開設。



## 第11回選書ツアーの実施

学生が図書館に置きたい本を選ぶ「選書ツアー」を今年度も実施しました。例年書店を訪問していましたが、11回目の今年度は新型コロナウイルスによる感染症拡大の状況を鑑み、Webサイト「Knowlegde Worker」にてオンラインで実施しました。2020年12月14日（月）から26日（土）の2週間に12名の学生が参加し、40冊の図書を購入することとなりました。学生が選んだ本は紹介POPを付けて図書館内にて展示予定です。



## 図書館における感染症対策

2020（令和2）年度は、新型コロナウイルスによる感染症拡大が深刻な状況となった1年でした。図書館においても、利用時のマスク着用や手指の消毒をはじめ感染防止の対策を講じてきました。2階閲覧室では感染症やウイルスに関する資料の展示も行っております。また、図書資料の除菌ボックスを2台導入しました。図書貸出の際には是非ご活用ください。



<展示：今後も資料を追加していきます>



<除菌ボックス：45秒間、紫外線を照射>